



東北に適したパン用小麦「ゆきちから」

作物機能開発部 麦育種研究室 019-643-3512

研究のねらい

近年、自給率向上や水田の有効利用のため、小麦の栽培面積拡大が図られており、その中で新たな需要拡大や地産地消の面から、パン用小麦の普及拡大が望まれている。そこで、寒冷地に適した製パン性の高い小麦新品種を育成する。

研究の成果

「ゆきちから」は2002年12月に東北農業研究センターにおいて、東北141号を母、さび系23号を父とする人工交配から育成され、岩手県、宮城県、福島県で栽培されている(図1)。

耐寒雪性に優れ、根雪期間の長い地域でも栽培が可能である(図2)。また、既存のパン用小麦「コユキコムギ」と比べ、成熟期が2日程度早く、「ナンブコムギ」と同程度で、梅雨による雨害回避の面からも優れ、東北の気候に良く適している。

穂発芽性は中程度であるが、赤さび病、うどんこ病、縞萎縮病のいずれにも強く、耐倒伏性も優れる。粉の蛋白質含量は「コユキコムギ」よりやや高い。現在パン用に多く使われている「ナンブコムギ」と比べると、蛋白がやや低く、パンの膨らみは同程度であるが、吸水性、作業性、食感などが良く、総合的に製パン適性が高い(図3)。



図1 「ゆきちから」の穂

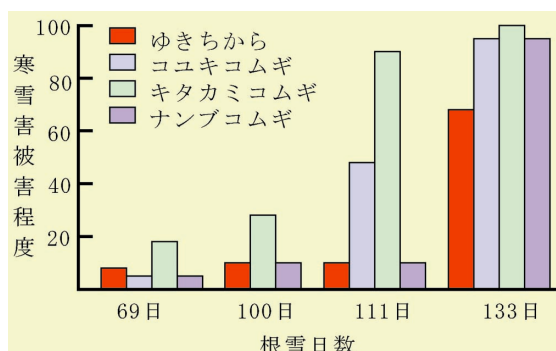


図2 岩手県奥中山における寒雪害被害程度

成果の利活用

根雪期間110日以内の地域に適応する。耐倒伏性に優れることから、多肥栽培で増収が図られ、追肥により高蛋白化と製パン適性の向上が図られる。パン原料の他、中華めん原料としても期待できる。

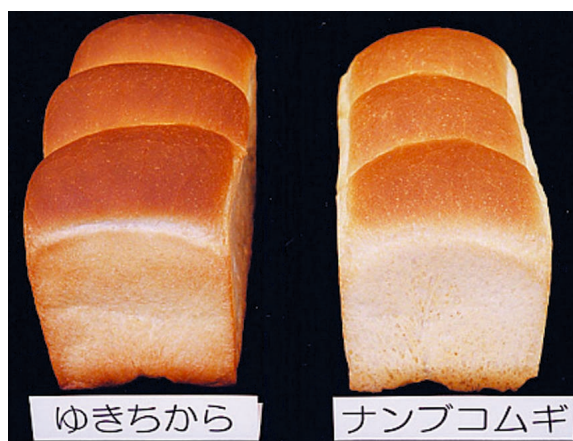


図3 「ゆきちから」で焼いたパン